

侍40

150

古文讀本 五の巻

古文讀本五の卷

大和田建樹選

○草のむす一(源氏物語)

紫式部

式部ハ藤原宣孝の室なるが早く夫をうり
なむてのち一條天皇の中宮上東門院の宮女と
なりしその筆にもれる源氏物語のまじりて
よきをばらけしる大伴とらふべし。今こゝに撰び
ゆるいはりて巻の一段までむすある帝に

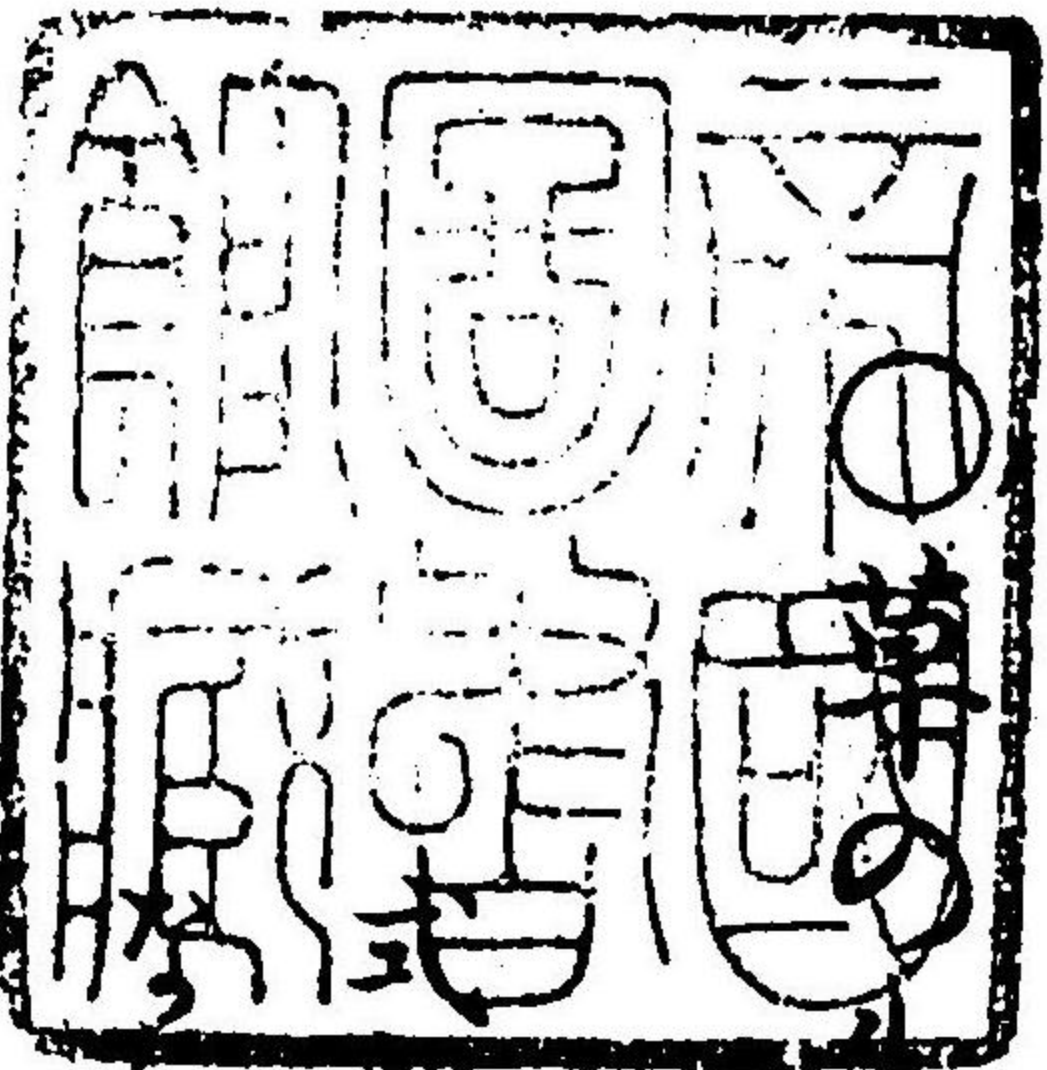
古文讀本五の巻

大和田建樹



源氏物語

紫式部



部ハ藤原宣孝の室とるが早く夫をう
いてのち。一條天皇の中宮土東門院の宮女と
なり。その筆にちれる源氏物語ハ。その文學の上
よきとせらるる大作といふべし。今こゝに撰び
ゆるは。その巻の一段とて。むづかしい帝に

はなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を

いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を

いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を
いふはなはた愛さるる婦人を

Main body of handwritten text on the right page, enclosed in a rectangular border.

Main body of handwritten text on the left page, enclosed in a rectangular border.

此後 諸君 幸勿 謂 此 言 為 妄 也 夫 聖 賢 之 教 化 豈 易 行 哉 必 有 聖 賢 之 德 而 後 能 化 民 猶 水 火 之 性 然 也 水 火 之 性 然 也 必 有 聖 賢 之 德 而 後 能 化 民 猶 水 火 之 性 然 也 必 有 聖 賢 之 德 而 後 能 化 民 猶 水 火 之 性 然 也

此後 諸君 幸勿 謂 此 言 為 妄 也 夫 聖 賢 之 教 化 豈 易 行 哉 必 有 聖 賢 之 德 而 後 能 化 民 猶 水 火 之 性 然 也

此後 諸君 幸勿 謂 此 言 為 妄 也 夫 聖 賢 之 教 化 豈 易 行 哉 必 有 聖 賢 之 德 而 後 能 化 民 猶 水 火 之 性 然 也

此後 諸君 幸勿 謂 此 言 為 妄 也 夫 聖 賢 之 教 化 豈 易 行 哉 必 有 聖 賢 之 德 而 後 能 化 民 猶 水 火 之 性 然 也 必 有 聖 賢 之 德 而 後 能 化 民 猶 水 火 之 性 然 也 必 有 聖 賢 之 德 而 後 能 化 民 猶 水 火 之 性 然 也

六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

— 2 —
— 3 —
— 4 —
— 5 —
— 6 —
— 7 —
— 8 —
— 9 —
— 10 —
— 11 —
— 12 —
— 13 —
— 14 —
— 15 —
— 16 —
— 17 —
— 18 —
— 19 —
— 20 —
— 21 —
— 22 —
— 23 —
— 24 —
— 25 —
— 26 —
— 27 —
— 28 —
— 29 —
— 30 —
— 31 —
— 32 —
— 33 —
— 34 —
— 35 —
— 36 —
— 37 —
— 38 —
— 39 —
— 40 —
— 41 —
— 42 —
— 43 —
— 44 —
— 45 —
— 46 —
— 47 —
— 48 —
— 49 —
— 50 —
— 51 —
— 52 —
— 53 —
— 54 —
— 55 —
— 56 —
— 57 —
— 58 —
— 59 —
— 60 —
— 61 —
— 62 —
— 63 —
— 64 —
— 65 —
— 66 —
— 67 —
— 68 —
— 69 —
— 70 —
— 71 —
— 72 —
— 73 —
— 74 —
— 75 —
— 76 —
— 77 —
— 78 —
— 79 —
— 80 —
— 81 —
— 82 —
— 83 —
— 84 —
— 85 —
— 86 —
— 87 —
— 88 —
— 89 —
— 90 —
— 91 —
— 92 —
— 93 —
— 94 —
— 95 —
— 96 —
— 97 —
— 98 —
— 99 —
— 100 —

— 101 —
— 102 —
— 103 —
— 104 —
— 105 —
— 106 —
— 107 —
— 108 —
— 109 —
— 110 —
— 111 —
— 112 —
— 113 —
— 114 —
— 115 —
— 116 —
— 117 —
— 118 —
— 119 —
— 120 —
— 121 —
— 122 —
— 123 —
— 124 —
— 125 —
— 126 —
— 127 —
— 128 —
— 129 —
— 130 —
— 131 —
— 132 —
— 133 —
— 134 —
— 135 —
— 136 —
— 137 —
— 138 —
— 139 —
— 140 —
— 141 —
— 142 —
— 143 —
— 144 —
— 145 —
— 146 —
— 147 —
— 148 —
— 149 —
— 150 —
— 151 —
— 152 —
— 153 —
— 154 —
— 155 —
— 156 —
— 157 —
— 158 —
— 159 —
— 160 —
— 161 —
— 162 —
— 163 —
— 164 —
— 165 —
— 166 —
— 167 —
— 168 —
— 169 —
— 170 —
— 171 —
— 172 —
— 173 —
— 174 —
— 175 —
— 176 —
— 177 —
— 178 —
— 179 —
— 180 —
— 181 —
— 182 —
— 183 —
— 184 —
— 185 —
— 186 —
— 187 —
— 188 —
— 189 —
— 190 —
— 191 —
— 192 —
— 193 —
— 194 —
— 195 —
— 196 —
— 197 —
— 198 —
— 199 —
— 200 —

の身はつゝもふらふ。花はまはらひてくはらふ。はば
 りもなき。もふらふ。はばらひてくはらふ。はば
 りもなき。もふらふ。はばらひてくはらふ。はば
 りもなき。もふらふ。はばらひてくはらふ。はば
 りもなき。もふらふ。はばらひてくはらふ。はば
 りもなき。もふらふ。はばらひてくはらふ。はば
 りもなき。もふらふ。はばらひてくはらふ。はば

おきおきおきおきおきおきおきおきおきおきおき

おきおきおきおきおきおきおきおきおきおき

まはらひてくはらふ。はばらひてくはらふ。はば
 りもなき。もふらふ。はばらひてくはらふ。はば
 りもなき。もふらふ。はばらひてくはらふ。はば
 りもなき。もふらふ。はばらひてくはらふ。はば
 りもなき。もふらふ。はばらひてくはらふ。はば
 りもなき。もふらふ。はばらひてくはらふ。はば

おきおきおきおきおきおきおきおきおきおき
 おきおきおきおきおきおきおきおきおきおき
 おきおきおきおきおきおきおきおきおきおき
 おきおきおきおきおきおきおきおきおきおき
 おきおきおきおきおきおきおきおきおきおき
 おきおきおきおきおきおきおきおきおきおき
 おきおきおきおきおきおきおきおきおきおき
 おきおきおきおきおきおきおきおきおきおき
 おきおきおきおきおきおきおきおきおきおき
 おきおきおきおきおきおきおきおきおきおき
 おきおきおきおきおきおきおきおきおきおき
 おきおきおきおきおきおきおきおきおきおき

かくしんたひたかひのたひたかひ
 かくしんたひたかひのたひたかひ
 かくしんたひたかひのたひたかひ
 かくしんたひたかひのたひたかひ
 かくしんたひたかひのたひたかひ
 かくしんたひたかひのたひたかひ
 かくしんたひたかひのたひたかひ
 かくしんたひたかひのたひたかひ
 かくしんたひたかひのたひたかひ
 かくしんたひたかひのたひたかひ

たひたかひのたひたかひ

追儼 肉裏に行か

くさの暮の儀式

讀方よ注意すべし

清厨子あり 讀方

注意すべし

たひたかひ 追儼

たひたかひのたひたかひ

追儼をたひたかひ

たひたかひ

たひたかひのたひたかひ 曆の日の名

○(一) (二) (三) (四) (五) (六) (七) (八) (九) (十)

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

る。其の。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

る。其の。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

人の子。ふも。みよ。しん。そ。り。か。き。へ。顔。ま。の。し。さ。な。思。ひ。お。も。
ひ。お。も。ひ。し。は。さ。さ。な。き。し。し。の。手。し。ら。ふ。は。な。ま。し。な。き。お。も。
ひ。お。も。ひ。た。ま。は。な。め。は。さ。さ。な。ま。る。あ。は。れ。た。り。し。く。た。
か。く。あ。ま。ら。し。て。い。ま。さ。き。の。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。
ま。し。ら。し。た。は。な。き。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。
ふ。そ。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。
た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。
か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。
ご。今。を。琴。柱。に。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。
か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。
る。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。

く。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。
た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。
か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。
ふ。そ。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。
た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。
か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。
ご。今。を。琴。柱。に。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。
か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。
る。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。し。し。の。か。り。か。り。あ。は。れ。た。り。し。く。た。

式部への宮
宇多天皇の
皇子、教慶親
王
三條右大臣
藤原定方

故式部卿の宮へ。三條の右のおとづ。こや上達部
なぐるわへてまわり給ひて。暮らまは遊びなご
し給て。あまのまきざらへて酔ひたまはて。
物語へて。おとづ物語をたはし。お郎をまわら給
うてなごたまは。

おとづの物語をたはし。お郎をまわら給
うてなごたまは。

○大肉山(同トク)

堤中納言
友原重輔
後上皇

堤中納言。肉は使ふて。大肉山一院のなかでた
はしますよまわり給て。おとづをよておは
たまは。おとづの歌をよみたまは。おとづの
おとづの歌をよみたまは。おとづの歌をよ
みたまは。

おとづの歌をよみたまは。おとづの歌をよ
みたまは。

尊子の帝
宇多上皇
たふまおんじ
あふまおんじ

○大井に行幸 (同トク)

尊子の帝の御幸にまゐりては
くまの御幸にまゐりては
くまの御幸にまゐりては
くまの御幸にまゐりては
くまの御幸にまゐりては
くまの御幸にまゐりては
くまの御幸にまゐりては
くまの御幸にまゐりては
くまの御幸にまゐりては
くまの御幸にまゐりては

くまの御幸にまゐりては

くまの御幸にまゐりては

くまの御幸にまゐりては

くまの御幸にまゐりては

くまの御幸にまゐりては

○捨垣の境 (同トク)

くまの御幸にまゐりては

学がしつゝとていふ者にも有け
 る。事母の事もあつて。純友が
 一から家もあつた。もの具も
 備へて。野大貳の使ふ下り
 給ひて。檜垣の清もあつた。
 野大貳の使ふ下り給ひて。檜
 垣の清もあつた。野大貳の
 使ふ下り給ひて。檜垣の清
 もあつた。野大貳の使ふ下り
 給ひて。檜垣の清もあつた。
 野大貳の使ふ下り給ひて。

野大貳
小野好古

頭白きまゝの水もあつた。
 野大貳の使ふ下り給ひて。
 檜垣の清もあつた。野大貳
 の使ふ下り給ひて。檜垣の
 清もあつた。野大貳の使ふ
 下り給ひて。檜垣の清もあ
 つた。野大貳の使ふ下り給
 ひて。檜垣の清もあつた。

Main body of handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines.

Main body of handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines.

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
الْحَمْدُ لِلَّهِ الَّذِي هَدَانَا لِهَذَا
وَمَا كُنَّا لِنَهْتَدِيَ لَوْلَا
رَحْمَةُ رَبِّنَا إِنَّ الْكَافِرِينَ
لِئَالِي اللَّهِ بَدَلٌ إِنَّ
رَبَّنَا يُخَيِّرُ مَن يَشَاءُ
وَمَا نَسْتَعِينُ إِلَّا بِاللَّهِ
فَعَلَى اللَّهِ تَوَكَّلْنَا
وَالْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
الْحَمْدُ لِلَّهِ الَّذِي هَدَانَا لِهَذَا
وَمَا كُنَّا لِنَهْتَدِيَ لَوْلَا
رَحْمَةُ رَبِّنَا إِنَّ الْكَافِرِينَ
لِئَالِي اللَّهِ بَدَلٌ إِنَّ
رَبَّنَا يُخَيِّرُ مَن يَشَاءُ
وَمَا نَسْتَعِينُ إِلَّا بِاللَّهِ
فَعَلَى اللَّهِ تَوَكَّلْنَا
وَالْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ

云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
 云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
 云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
 云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
 云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
 云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
 云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
 云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

魚云々云々云々云々云々云々云々云々云々
 云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
 云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
 云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
 云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

飲食

云々云々云々

其書をもつて言わづ

云々云々云々

○(一) (一)

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

てはさしづめはなれぬとて
腹胸をわたりて
さしづめはなれぬとて
鼻のあたりに
涙をながし
さしづめはなれぬとて
さしづめはなれぬとて
さしづめはなれぬとて
さしづめはなれぬとて
さしづめはなれぬとて

さしづめはなれぬとて
さしづめはなれぬとて
さしづめはなれぬとて
さしづめはなれぬとて
さしづめはなれぬとて
さしづめはなれぬとて
さしづめはなれぬとて
さしづめはなれぬとて
さしづめはなれぬとて
さしづめはなれぬとて
さしづめはなれぬとて

アツかく丸
不そを丸
琴の名

アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名

アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名
アツかく丸不そを丸琴の名

古文讀本

ごころ

一族了同ト

○紀行のころ 一 (土佐日記)

紀貫之朝臣

貫之、天慶九年に没せしむ。古今集撰者の
主たる一人なり。延長八年土佐守となりて
任國より下り。任滿りて承平四年に歸京せ
られし時の紀行を土佐日記といふ。文中

にあまのこの感慨する中に、しるして下ら
むむの佐の土佐もてもくちもしたるをいふ
むなしい海へささぐりてあはれさすなり。

五日、なごらりて。和泉の灘より小津のさま
ねらふ。松系めまはらぐりてあはれさすなり
にみまへりての歌。

① ぬきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ぬきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ぬきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ぬきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ぬきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ぬきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ぬきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

古文讀本

五の巻

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

命。神の言はたまはる。いかに
 神の言はたまはる。いかに
 神の言はたまはる。いかに
 神の言はたまはる。いかに
 神の言はたまはる。いかに
 神の言はたまはる。いかに
 神の言はたまはる。いかに
 神の言はたまはる。いかに

命。神の言はたまはる。いかに
 神の言はたまはる。いかに
 神の言はたまはる。いかに
 神の言はたまはる。いかに
 神の言はたまはる。いかに
 神の言はたまはる。いかに
 神の言はたまはる。いかに
 神の言はたまはる。いかに

終日
 喜ぶが
 下の略すに注

ふんけんくわん

いふさかん

水取

きつぎふちしつめい

きつぎふちしつめい

〇二二 (同二)

七日は川尻舟のついでに川舟のついでに
 三日の舟ついでに舟のついでに
 舟のついでに舟のついでに舟のついでに
 舟のついでに舟のついでに舟のついでに

舟のついでに舟のついでに舟のついでに
 舟のついでに舟のついでに舟のついでに
 舟のついでに舟のついでに舟のついでに
 舟のついでに舟のついでに舟のついでに
 舟のついでに舟のついでに舟のついでに
 舟のついでに舟のついでに舟のついでに
 舟のついでに舟のついでに舟のついでに
 舟のついでに舟のついでに舟のついでに
 舟のついでに舟のついでに舟のついでに
 舟のついでに舟のついでに舟のついでに

業平の中將の如の中にあえて横のさかぢりた。
春の心まのびゆるたふらふもさかぢりたよめる所あり
くら。今興ある人所に伝ふる歌よめり。

か代りまのびゆるたふらふもさかぢりたよめる

かたのびゆるたふらふもさかぢりたよめる

たふらふもさかぢりたよめる

たふらふもさかぢりたよめる

たふらふもさかぢりたよめる

たふらふもさかぢりたよめる
たふらふもさかぢりたよめる
たふらふもさかぢりたよめる

たふらふもさかぢりたよめる
たふらふもさかぢりたよめる
たふらふもさかぢりたよめる
たふらふもさかぢりたよめる
たふらふもさかぢりたよめる

たふらふもさかぢりたよめる

たふらふもさかぢりたよめる

たふらふもさかぢりたよめる
たふらふもさかぢりたよめる
たふらふもさかぢりたよめる
たふらふもさかぢりたよめる
たふらふもさかぢりたよめる

トコナギノコノキ。トコナギノコノキノ葉ノ汁ヲ取リテ之ヲ干シテ粉ニシテ食シ之ヲ食スルニ好シキ也。トコナギノコノキノ根ノ汁ヲ取リテ之ヲ干シテ粉ニシテ食シ之ヲ食スルニ好シキ也。

トコナギノコノキノ骨ノ
トコナギノコノキノ骨ノ
トコナギノコノキノ骨ノ
トコナギノコノキノ骨ノ

トコナギノコノキノ飯粒ノ
トコナギノコノキノ飯粒ノ
トコナギノコノキノ飯粒ノ
トコナギノコノキノ飯粒ノ

精進ノ人ニ好シキ也

トコナギノコノキ (トコナギ)

トコナギノコノキノ葉ノ汁ヲ取リテ之ヲ干シテ粉ニシテ食シ之ヲ食スルニ好シキ也。トコナギノコノキノ根ノ汁ヲ取リテ之ヲ干シテ粉ニシテ食シ之ヲ食スルニ好シキ也。トコナギノコノキノ骨ノ汁ヲ取リテ之ヲ干シテ粉ニシテ食シ之ヲ食スルニ好シキ也。トコナギノコノキノ骨ノ汁ヲ取リテ之ヲ干シテ粉ニシテ食シ之ヲ食スルニ好シキ也。

○ 凡人欲求其學業之成者 必先求其心術之正
○ 心術正則學業成 心術不正則學業不成

+ 子曰 志士居之不疑 小人居之如履薄冰

+ 子曰 士有畫地不遷 勢不可入之節

+ 子曰 士有畫地不遷 勢不可入之節 削木為吏議

+ 子曰 士有畫地不遷 勢不可入之節 削木為吏議 樹木為吏議

+ 子曰 士有畫地不遷 勢不可入之節 削木為吏議 樹木為吏議

+ 子曰 士有畫地不遷 勢不可入之節 削木為吏議 樹木為吏議

+ 子曰 士有畫地不遷 勢不可入之節 削木為吏議 樹木為吏議

+ 子曰 士有畫地不遷 勢不可入之節 削木為吏議 樹木為吏議

○ 凡人欲求其學業之成者 必先求其心術之正

+ 子曰 志士居之不疑 小人居之如履薄冰

+ 子曰 士有畫地不遷 勢不可入之節

+ 子曰 士有畫地不遷 勢不可入之節 削木為吏議

+ 子曰 士有畫地不遷 勢不可入之節 削木為吏議 樹木為吏議

+ 子曰 士有畫地不遷 勢不可入之節 削木為吏議 樹木為吏議

+ 子曰 士有畫地不遷 勢不可入之節 削木為吏議 樹木為吏議

+ 子曰 士有畫地不遷 勢不可入之節 削木為吏議 樹木為吏議

+ 子曰 士有畫地不遷 勢不可入之節 削木為吏議 樹木為吏議

+ 子曰 士有畫地不遷 勢不可入之節 削木為吏議 樹木為吏議

Main body of handwritten text in Arabic script, consisting of several lines of prose.

Main body of handwritten text in Arabic script, consisting of several lines of prose.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical passage. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, starting from the right side of the page and moving towards the left. The script is cursive and includes various diacritical marks.

Handwritten text in Arabic script, continuing the passage from the previous page. It consists of about 10 lines of cursive text with diacritics, positioned within a rectangular frame.

響應

たごり

菓子の名

ひで〜ぬ〜て

〜 かなたのこゝろ

たま〜のこゝろ 下の略語

注き〜

○寶龜二年の詔

(續日本紀)

作者さ〜まげ

續日本紀ハ桓武天皇の御時の勅撰にて。本文ハ漢文とまじり。當時の詔をば詞のまじり載せらま〜る。これハ左大臣藤原永手の薨せ

らま〜時。その家〜つた〜る〜もれ
ちり。

藤原左大臣にのり給ふ大命をのり。大命にませの
り給ひく。大臣あはるまゐるべきは入む。待〜る
ふあひだふ。や〜る〜てまゐる〜事ハなく
〜て。天皇が朝廷をま〜てま〜る〜。こ
〜め〜てま〜る〜。こ
〜る〜。こ
改官の政をば。た〜によ〜る〜。こ
〜れにちづ〜る〜。

の大いなるおはのすべし。朝の夜豊
たすけむ。かきむ。つらむ。つらむ。
なむ。む。む。む。む。む。む。む。む。
か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。
な。な。な。な。な。な。な。な。な。な。
む。む。む。む。む。む。む。む。む。む。
は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。
ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。
も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。

か。か。か。か。か。か。か。か。か。か。
た。た。た。た。た。た。た。た。た。た。
な。な。な。な。な。な。な。な。な。な。
ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。
も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。

大命
妖言
狂言

大命
食國

○大殿祭の詞 (延喜式)

作者 小川

延喜式ハ醍醐天皇の沛時の勅撰にて。ハ乃
卷にも古より用ひ来給へる。官祭神事の
詞を載せしむる。大殿祭ハ大殿の安全
を祈りなる祭にて。神今食。新嘗といふ二
つの神事の翌日行ハる。神今食ハ六月十

二月。新嘗ハ十一月なり。

高天原に神づまらまら。皇親神魯企神魯美の命
もたら。皇御孫命を。天津高御座にませて。天津璽
の鏡劔を捧げ持ち給ひて。こゝろほだ宣りたまひ
く。すめらみまらづの沛子。皇御孫命。こまの
天津高御座に。天津日嗣を。万千秋の長秋よ。大
八洲豊葦原の瑞穂の國を。安國と平らけくまら
めせと。言よまら。天津御謀もたら。言ど
ら。磐根木根もたら。草のつたををい言やめ
て。あまのこゝろ。食國の天の下と。天津日嗣

る。くづのかたがにのこがわのくふしこままる
の玉よ。たひのこにぎこまにひいそまけけ。齋部
宿禰某が弱肩よふもだすとたさう。けて。こまほ
ぎまづめままる事。の。まひおさるも。まらる。神直
日命。大直日命。聞き直し見直して。平らけく
安らけくさう。めせの申す。

こらわけて申す。大宮賣命と御名をやり
事。皇御孫命の同殿のこまらにひいこがらま
し。まらる。まらる。こまらる。こまらる。神も
らのいすこまらる。こまらる。こまらる。こまらる。か

は。ま。て。皇御孫命の朝の御膳夕の御膳仕へ
ま。ひ。ま。ら。る。こ。ま。ら。る。た。く。ま。ら。る。こ。ま。ら。る。の
ま。ら。る。手。の。ま。ら。る。こ。ま。ら。る。こ。ま。ら。る。め。づ。て。親
王諸王諸臣百官の人たちを。ま。ら。る。こ。ま。ら。る。あ
ら。ま。ら。る。あ。ら。ま。ら。る。こ。ま。ら。る。こ。ま。ら。る。宮す
め。に。ま。ら。る。宮。に。ま。ら。る。こ。ま。ら。る。こ。ま。ら。る。外宮
あ。ら。ま。ら。る。見直し。ま。ら。る。ま。ら。る。ま。ら。る。平らけく
安らけく仕へ奉らる。ま。ら。る。ま。ら。る。ま。ら。る。大宮賣命
と御名をた。ま。ら。る。ま。ら。る。ま。ら。る。ま。ら。る。か。

大殿祭 おぼとのやが

いとよむづー

皇親神魯企神魯美

すめらみづつらむら

ぎかむるらとよむ

づー天皇の御先祖

二神をらひ詞

天津高御座 あま

つたうみくうとよむ

づー

びめのみこらとよむづー

堅磐 常磐 うたを

とたをらとよむづー

あかしのにぎててのにぎ

て にぎてハ和妙とうたを

やはらぐれる織物をらひ

あつてのハ其をのう

つーきをさしとらう

神直日命大直日命とむ

なるびのこらとよむづー

天津璽 あまつちう

とよむづー

津あとの 御殿

同ド

齋 いむとよむづー

屋船命 やぶねのみ

とよむづー

久々能遲命 くくのち

のみとよむづー

豊宇氣姫命 とよかけ

びのみこらとよむづー

大宮賣命 おふみやの

めけらとよむづー

朝の津膳夕の津膳

あたるけけゆびの

けとよむづー

とよむづー 一部属乃

長をらひ

親王諸王諸臣百官

みくらたらちふさこ

原の瑞穂の國を安國と平らけくちる。めせむ
 らやうけら。ましくも。へんま。し。ま。り。し。く。ぬ
 ちに荒ぶる神をたを。神問りに問は。たま
 ひ。神掃いに掃いたまひて。や。問ひ。磐根。だ
 ら。草。け。う。ち。を。ま。も。ち。や。め。て。天の磐座。放。ち。天
 の八重雲を。い。づ。の。ち。も。ま。に。ち。わ。ち。で。天降。よ
 さ。ま。り。た。へんま。し。ま。り。し。四。方。の。國。中。と。大
 倭日高見の國を安國と定めま。り。て。下津磐根。よ
 宮柱。を。た。た。え。て。高天原に千木。た。り。ち。り。て。皇
 御孫。命。の。す。づ。の。法。あ。く。ら。は。ま。り。て。天の。こ。か

げ。目。け。か。が。ぐ。と。り。ま。り。て。安國と平らけく
 ちる。め。せ。む。し。く。ぬ。ち。に。荒。ぶ。る。神。を。た。を。
 が。過。ち。を。か。い。ん。む。ん。た。げ。罪。事。ハ。中。略。こ。う
 だ。く。の。罪。出。で。む。う。く。出。で。ば。天。つ。宮。事。も。ら。く。
 大。中。臣。天。つ。の。ち。ぢ。を。本。ら。ち。ち。り。未。ら。も。た。ち。つ。て。
 千。座。の。置。座。に。置。き。足。ら。は。し。て。天。つ。す。づ。の。を。本
 新。り。た。ら。未。新。り。ま。り。て。八。針。に。ご。り。ち。ち。て。天津
 祝。詞。の。太。祝。詞。言。を。の。き。う。く。の。ら。バ。天津。神。と。天
 の。磐。門。を。た。い。ら。ち。て。天。の。八。重。雲。を。い。づ。の。ち
 ら。た。ふ。ち。わ。き。て。ま。り。め。ち。む。國。津。神。を。高。山。の

末短山の末にのぼりまゝして高山のいざり短山のいざりをいざりてまゝしてめしむ。いざりて四方の國にを罪といふ罪ハあつと。まれば風の天の八重雲を吹き放つたの如く。朝乃霧夕のつゝ霧を朝風夕風の吹きはらふ事の如く。大津辺に居る大船を舳と放ち艦と放ちて。大海の原にわつ事を如く。をちかたのーげ木が本を。燒鎌のさのまもらてうちはらふ事の如く。のこる罪をあつと。被入給ひ法

め給ふ事を。高山の末短山の末よりけりて。に落ちたぎつ。早川の瀬にまは瀬織津比咩といふ神。大海乃原小持ち出でむ。く持ち出でいさぎ。荒瀨の潮の八百路乃八潮路の潮の八百あひよまは速岡都比咩といふ神。もちあひのそむかくのいさぎ。いぶきまにまは氣吹戸主といふ神。根の國底の國にいぶき放ちてむ。いぶき放ちてむ。根の國底の國よまは速佐須良比咩といふ神。さひくひうしむてむ。く失ひてを。天皇が朝廷に仕へる官々の人あつを始

めて。天の下四方にを今日より始めて。罪とひふ
罪ハあ〜〜。高天原より耳ふりたて聞く物と
馬牽たきて。今年の六月二十晦の日の夕日の
くだらみ大祓。祓へ給ひ清め給ふ事を。まなく
さ〜〜めせんと宣る。

〜〜に集ま

まると同

くむらつ 國の内の約音

〜〜同

〜〜を

天津祝詞の太祝詞言

あま〜の〜

〜〜

同

千木 脚殿のちねう

とに出でたる木

天つかちねう 山はき木

の枝をいふ

千座置座 ちん

のた〜

〜〜後の果を置へ

〜

天つかちねう 音はき木

瀬織津比咩 せむら

つひめ〜

速用津比咩 はやあ

きつひめ〜

氣吹戸主 けふちぬ

〜

速佐須良比咩 はやすら

〜

〜

○倭建命 (古事記)

太安万侶朝臣

古事記ハ元明天皇の後時。天武天皇の遺勅によりて稗田阿礼ガ口傳せらる。安万侶朝臣の言ハ...

天皇小碓命にのたまひける。何とも汝のしるせ。朝夕の大津食にまわでくべし。をばく汝を...

天皇
景行天皇

きーはさせとちたきかへんのいたまひ
このち。み日といふまで猶まわでたまひけりま。
つき天皇小碓命にのたまひける。汝のしる
せ。夕の大きな食にまわでくべし。をばく汝を
あやむ。問ふに答へけり。きしむかしたま
ひたまひける。朝けのたまひにのたまひけり。捕
へるにや。かへりてけり。かへりてけり。天
皇。そは。汝の子は。いふに。いふに。いふに。

まゝのうたはたもいへ。面の方に熊曾建ふゝらうり。
 ちかきとてはくしにむかひもあはれいふ。あはれいふは
 りあはれいふはくしにむかひもあはれいふ。あはれいふは
 確命。そのは姨倭比賣命は清衣は裳をたまたま
 り。太刀をば懐く。あはれいふはくしにむかひもあはれいふは
 建が家にこゝろあはれいふはくしにむかひもあはれいふは
 軍三重にむかひもあはれいふはくしにむかひもあはれいふは
 る。新室らたはくしにむかひもあはれいふはくしにむかひもあはれいふは
 ちかきとてはくしにむかひもあはれいふはくしにむかひもあはれいふは

こころあはれいふはくしにむかひもあはれいふはくしにむかひもあはれいふは
 のうたはたもいへ。面の方に熊曾建ふゝらうり。
 ちかきとてはくしにむかひもあはれいふ。あはれいふは
 りあはれいふはくしにむかひもあはれいふ。あはれいふは
 確命。そのは姨倭比賣命は清衣は裳をたまたま
 り。太刀をば懐く。あはれいふはくしにむかひもあはれいふは
 建が家にこゝろあはれいふはくしにむかひもあはれいふは
 軍三重にむかひもあはれいふはくしにむかひもあはれいふは
 る。新室らたはくしにむかひもあはれいふはくしにむかひもあはれいふは
 ちかきとてはくしにむかひもあはれいふはくしにむかひもあはれいふは

たあちびど乃神をこもるもむらやほりもまゐの
ぼりまゝたきれをら出雲の國にいらまゝてそ
の出雲建をさうんとおもほりていぬりまゝて
すれをらうるばいり路ひきわれひそりたに
ちひの本もて太刀につくりさうてみやさうて
ごもに肥河は河あみり路ひきさうり倭建命河
よりまぎあがりまゝて出雲建がさきたける太
刀をさうはらうて太刀がせんとりの路ひき
きのちに出雲建河よりあがりて倭建命の小太
刀をばさう。ちうに倭建命いご太刀あはさんと

あさう路ひき。のきちひのもその太刀をぬくと
きに。出雲建小太刀をえぬのうび。されをら倭建命
さけ太刀をぬきさう。出雲建をさうり路ひき。
のちひまゝいり路ひき。

やうまちひ出雲たんとははらる太刀

はらうちひ出雲たんとははらる太刀

いりまゝいりきたひらうて。まゐのびりていり
のちひまゝいり路ひき。

汝 しまゝいりまゝいり 大食 ちひまゝいり

グー

わぐ 乞ひやすき

えぐ 手足をいふ

うき 独る処にのき

清衣 みぎをいふ

うぐ 酒宴ちり

きもて 食物ちり

けす 着るに同ド

汝命 ちがみこ

グー

天皇 ちがた

これららけの

めい

倭男具那 やまを

グー

かごら 熟したる瓜を

りふ

あちぞ 長門國と豊前

國との間の海の名

うるは 友愛の意

大帯日子游斯呂和氣

○そよ二 (同ド)

こくに天皇まゝいぢまゝ倭建命よ。ひむの一方
すまの二道のあゝまゝ。まゝまゝつらゝぬ人
ごもをさゝいむけちらせ。このつたましい。吉備は
らゝ祖。名は祖友身建日子をそつてつこのそん
時。ひゝらむの八尋矛を給ひま。この命をう

いさあまはらしてまはるひでまはく時了。伊勢の大津
 神の宮にまゐりて。神の朝廷をさくらがと路
 ひて。そは清姨倭比賣命にまはる路くらくひ。天
 皇さかへまはる路くらくひ。そは清姨倭比賣命に
 まはる路くらくひ。そは清姨倭比賣命に
 まはる路くらくひ。そは清姨倭比賣命に
 まはる路くらくひ。そは清姨倭比賣命に
 まはる路くらくひ。そは清姨倭比賣命に

まはる路くらくひ。そは清姨倭比賣命に
 まはる路くらくひ。そは清姨倭比賣命に
 まはる路くらくひ。そは清姨倭比賣命に
 まはる路くらくひ。そは清姨倭比賣命に
 まはる路くらくひ。そは清姨倭比賣命に
 まはる路くらくひ。そは清姨倭比賣命に
 まはる路くらくひ。そは清姨倭比賣命に
 まはる路くらくひ。そは清姨倭比賣命に
 まはる路くらくひ。そは清姨倭比賣命に
 まはる路くらくひ。そは清姨倭比賣命に

この山にまはるかたはかのは構海にまはるるた
かたはまはるるは構をまはるるは墓をまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

のぼりたてておもむくにたててありしをた
やのりたてしむをわその國をありしをいふ
ちり。すれをもちそは國よりこゑて甲斐にいづ。
酒折宮にましくらるるまはるる。うたひ路いづ。
にひばり筑波をすむて幾夜の寐いづ。
ちりにそはは火たきよの翁。は歌きつむて。
あづちるるておにを九夜日にを十日を
とづちたてむる。こゑをいふまはるるはるる
東國造にぞなまはるる。

御鋤友耳建日子みす

まことみきたけひとく

よむづー

いんたもあつねい

かみあつねにのま

このあつねにぬい

野の古言ちり

ちほやぶるゆ 荒ぶ

古文讀本五の巻 終

る神は同ド

弟橘比賣命 ちとたち

かまひめはくさくさよ

むづー

まの政 任せられたる

政のま

はのれい 乾飯より旅人

の食相ちり

明治三十二年五月二十日印刷
明治三十二年五月廿四日發行

卷定價金廿五錢

選者 大和田建樹

發行兼印刷者 大橋新太郎

日本橋區本町三丁目八番地

版權 所有

東京日本橋區本町三丁目

發兌元 博文館

